



⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

D R A G S T A R
XVS250

19D-28199-J7

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注 意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために.....	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-4
環境・住民の方との調和のために.....	1-5

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
キーの取り扱い	3-1
メインスイッチ	3-1
警告灯と表示灯	3-3
スピードメーターユニット	3-3
ハンドルスイッチ	3-4
フューエルタンクキャップ	3-5
燃料	3-6
フューエルコック	3-7
チョークレバー	3-7
ヘルメットホルダー	3-8
書類入れ	3-8
リヤクッションの調整	3-9
サイドスタンド	3-9
イグニッションサーキット カットオフシステム	3-10

日常点検	4-1
日常点検の実施	4-1
日常点検箇所／点検内容	4-1

運転操作	5-1
エンジン始動 （エンジンが冷えているとき）	5-1
エンジン始動 （エンジンが暖まっているとき）	5-2
ギヤチェンジのしかた	5-2
ブレーキ	5-3
ならし運転	5-3
駐車	5-4

点検整備	6-1
点検整備の実施	6-1
サービスツール	6-2
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-4
エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-5
低速、加速の状態の点検	6-5
エアクリナーエレメントの清掃	6-6
タイヤ	6-7
クラッチ	6-9
ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	6-10
ブレーキランプスイッチ	6-11
ブレーキパッドの点検	6-12
ブレーキシューの摩耗点検	6-12
ブレーキ液量の点検	6-13
ブレーキ液の補給	6-13
ドライブチェーン	6-14
ドライブチェーンの給油	6-15
バックミラー	6-16

車体各部の給油脂状態の点検	6-16
アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 （ステアリングシステム）	6-17
バッテリー	6-17
ヒューズ交換	6-20
灯火装置および方向指示灯の 点検	6-21
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-21

お車の手入れ	7-1
洗車	7-1
保管のしかた	7-2
アフターケア用品について	7-3

製品仕様	8-1
------------	-----

ユーザー情報	9-1
二輪車を廃棄する場合は？	9-1
サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-2
車両情報	9-2

索引	10-1
----------	------

JAU27281

JAU44285

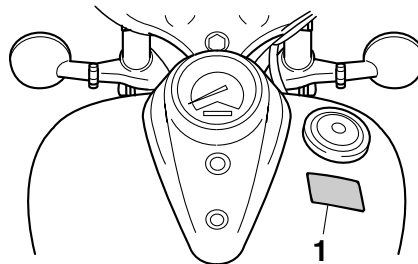
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - ・保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

安全運転のために

1

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

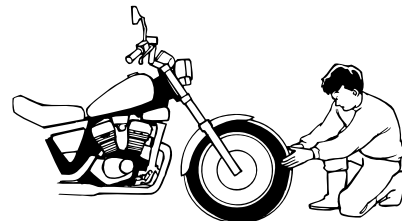
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

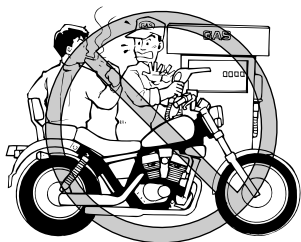
- 異音が生じたり、異臭や異常な振動があると

き。

- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

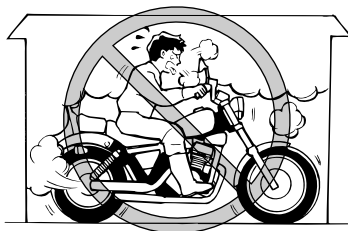
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

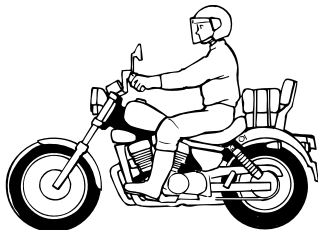
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



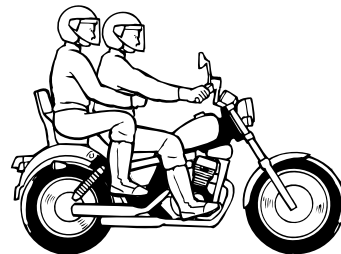
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損した

り、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。

- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせませう。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせませう。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

安全運転のために

1

急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください

い。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

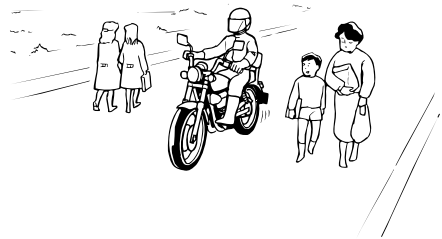
自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。



歩行者と他の車のために 他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な

JAU27504

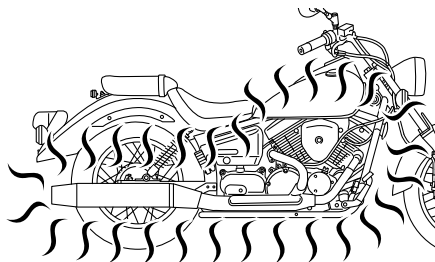
場所に駐車するときは、転倒や動き出しの
ないようにしてください。

- 車から離れる前に、スタンドが確実にセッ
トされているかを確認してください。

JWA12241

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの
間はマフラーやエンジンなどが熱くなっ
ています。触れるとヤケドをすることがあ
りますので、注意してください。また、物
などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジン
などに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になりま
す。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃え
やすいものがある場所には駐車しないで
ください。

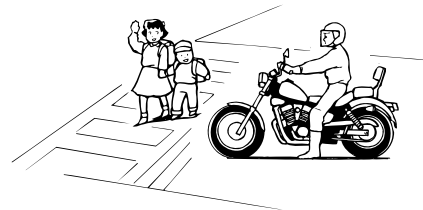


昼間はヘッドライトを下向きに

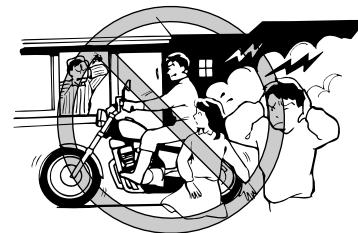
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や
歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知ら
せるためです。対向車がまぶしくないよう
に、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快
な騒音などの迷惑をかけないでください。

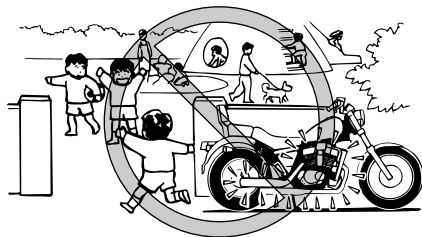


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路など
で長時間のアイドリングや急発進などを行
うと、迷惑になりますのでしないでくださ
い。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。
改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を
大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事

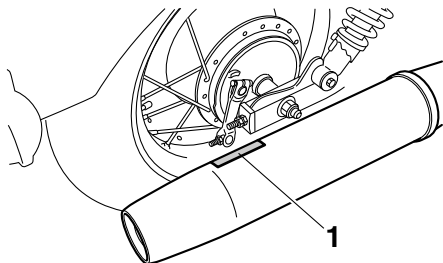


安全運転のために

1

故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。

- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



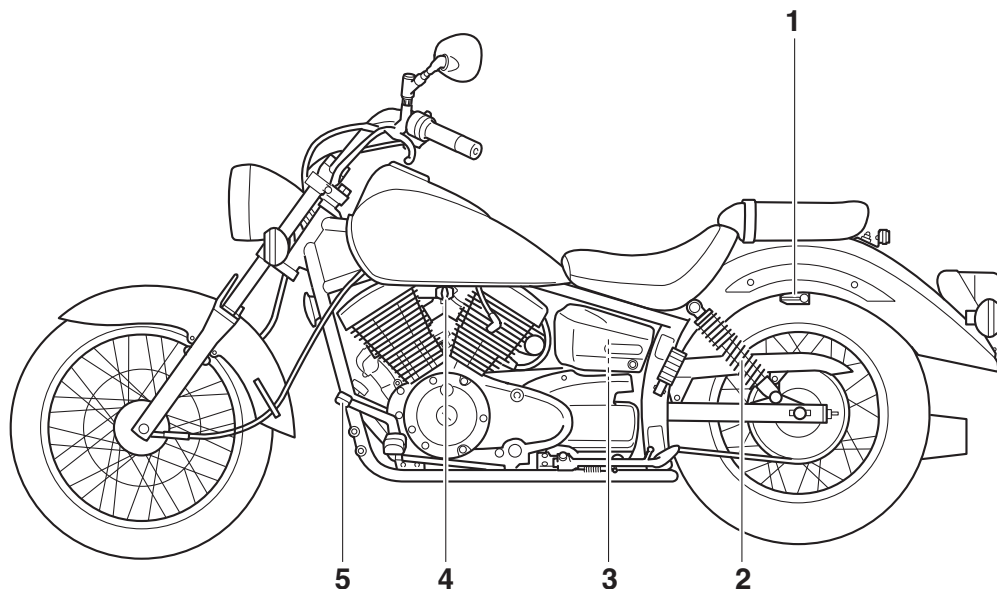
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面

2



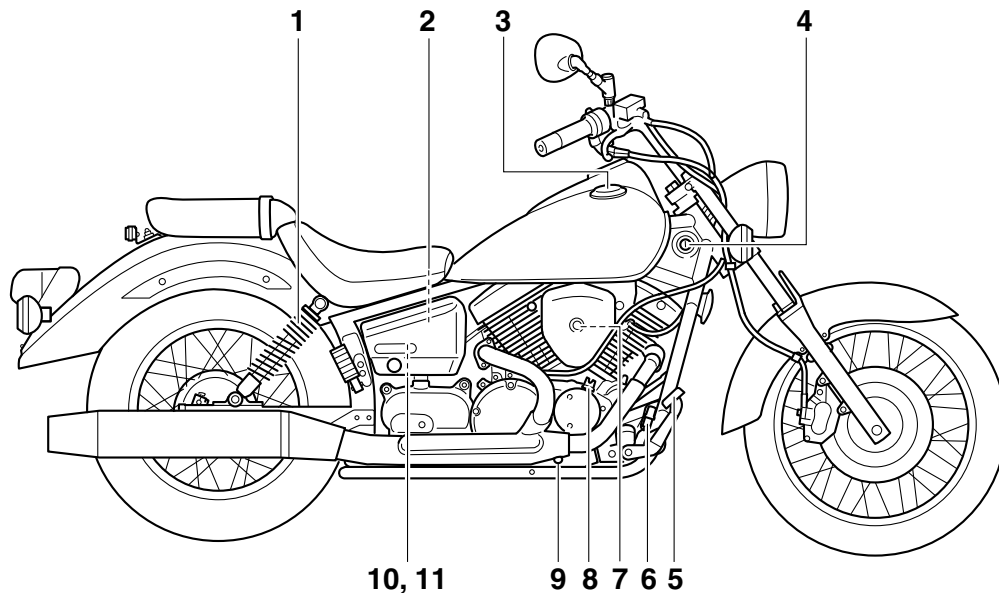
1. ヘルメットホルダー (P3-8)
2. リヤクッション (P3-9)
3. ヒューズ (P6-20)
4. フューエルコック (P3-7)
5. シフトペダル (P5-2)

各部の名称

JAU10421

右側面

2



1. リアクッション (P3-9)

2. バッテリー (P6-17)

3. フューエルタンクキャップ (P3-5)

4. メインスイッチ/ハンドルロック (P3-1)

5. ブレーキペダル (P6-10)

6. リアブレーキランプスイッチ (P6-11)

7. エアクリーナーエレメント (P 6-6)

8. オイル注入口 (P6-4)

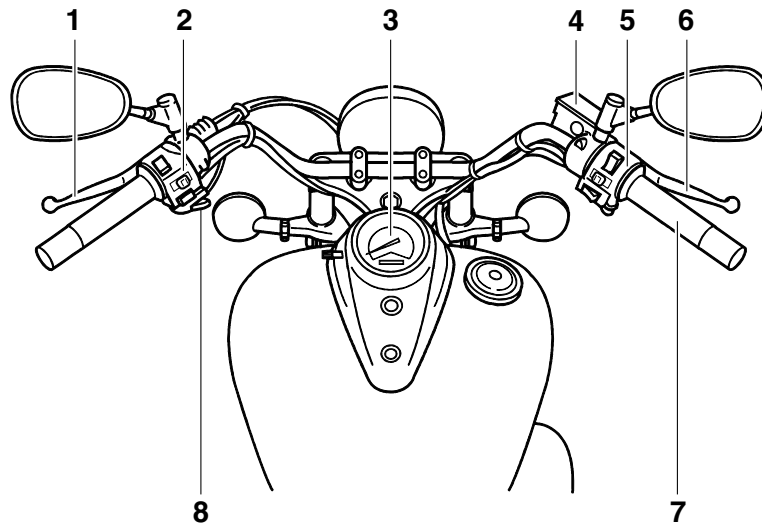
9. エンジンオイル点検窓 (P6-4)

10. 書類入れ (P3-8)

11. サービスツール (P6-2)

運転装置と計器類

2



1. クラッチレバー (P6-9)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-4)
3. スピードメーターユニット (P3-3)
4. フロントブレーキマスターシリンダー (P6-13)
5. ハンドルスイッチ (右) (P3-4)
6. ブレーキレバー (P6-10)
7. スロットルグリップ
8. チョークレバー (P3-7)

各部の取り扱いと操作

JAU31082

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは 2 本付属しています。1 本は予備として大切に保管してください。
- 1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを 2 本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



JCA12502

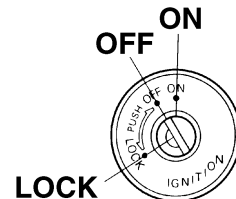
注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当

たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをおすすめします。

メインスイッチ

JAU10462



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU34441

ON

全ての電気回路に電源が供給され、テールランプとメーター灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。

JAU46011

OFF

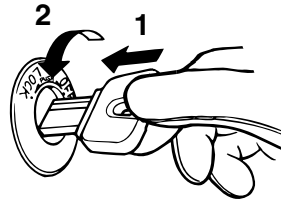
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU1068B

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



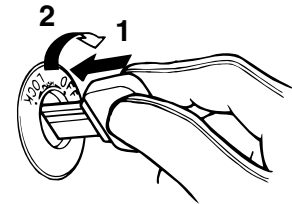
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



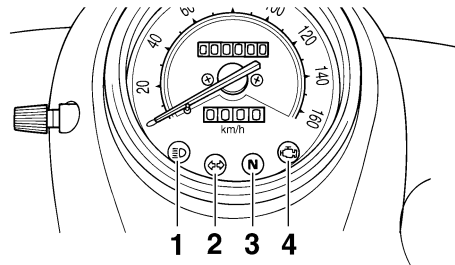
1. 押す
2. 回す

- LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

各部の取り扱いと操作

警告灯と表示灯

JAU1100D



1. ヘッドライト上向き表示灯 “”
2. 方向指示器表示灯 “ ”
3. ニュートラルランプ “**N**”
4. エンジン警告灯 “”

方向指示器表示灯 “ ”

JAU11022

方向指示器に合わせて点滅します。

ニュートラルランプ “**N**”

JAU11061

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

ヘッドライト上向き表示灯 “”

JAU11081

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

エンジン警告灯 “”

JAU11486

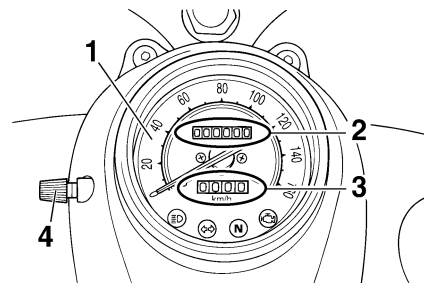
エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要 点

- この警告灯は、キーを ON にしたときに約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- キーを ON にしたときに警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

スピードメーターユニット

JAU11631

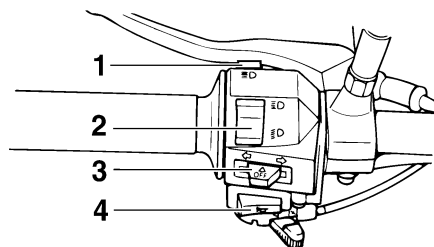


1. スピードメーター
2. オドメーター
3. トリップメーター
4. リセットノブ

スピードメーターユニットにはスピードメーター、オドメーター、トリップメーターが装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を示します。トリップメーターは、前回リセットノブを回してリセット（ゼロ）にした時点からの走行距離を示します。

ハンドルスイッチ

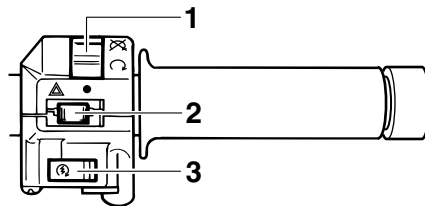
<左>



1. パッシングライトスイッチ “≡〇”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡〇/≡〇”
3. 方向指示器スイッチ “↵/↵”
4. ホーンスイッチ “📢”

JAU1234M

<右>



1. エンジnstopスイッチ “○/⊗”
2. ハザードスイッチ “△”
3. スタータースイッチ “(S)”

JAU12352

パッシングライトスイッチ “≡〇”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “≡〇” のときは、使用できません。

JAU12401

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡〇/≡〇”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡〇(上向き)：遠くを照らします。

≡〇(下向き)：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “↵/↵”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

↵：右側の方向指示灯が点滅します。

↵：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠ 警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “📢”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

各部の取り扱いと操作

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28182

エンジンストップスイッチ “/○”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は“○”にしておきます。

JWA12101

⚠ 警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12351

注 意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを“○” → “” → “○” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

要 点

“” にすると、エンジンは始動できません。

JAU12713

スタータースイッチ “”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

JAU12766

ハザードスイッチ “”

メインスイッチを ON にした状態で、スイッチを“”にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

フューエルタンクキャップ

JAU13023

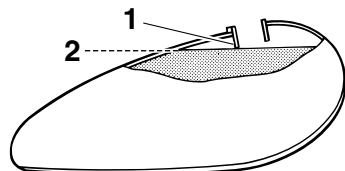
JWA12172

⚠ 警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

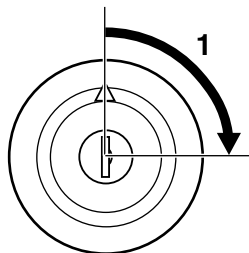
- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた



1. 解除

キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回します。ロックは解除され、フューエルタ

ンクキャップを取り外すことができます。
フューエルタンクキャップの取り付けか
た

1. キーをロックに差し込んだ状態で、“△” マークを前方に向け、フューエルタンクキャップを取り付けます。
2. キーを反時計方向に回し、抜き取ります。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを取り付けることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく取り付けないと、キーを抜き取ることはできません。

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28263

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 11 L
予備容量：
約 3.4 L

JCA12512

注 意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

各部の取り扱いと操作

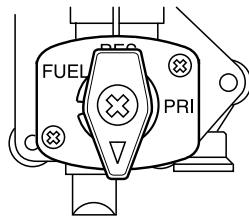
3

フューエルコック

JAU13582

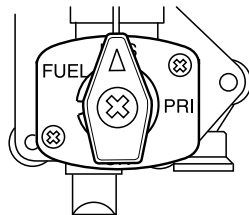
この車のフューエルコックは自動コックです。ON および RES の位置でエンジンが停止すると、自動的にガソリンの流れが止まります。

ON



始動および走行時のレバー位置です。

RES

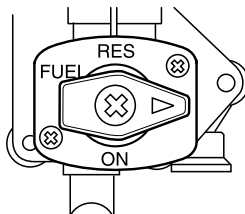


予備燃料（予備容量約 3.4 L）のレバー位置

です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

PRI



RES の位置でガソリンがなくなり、給油するときにこの位置にします。（給油後の始動が容易になります。）

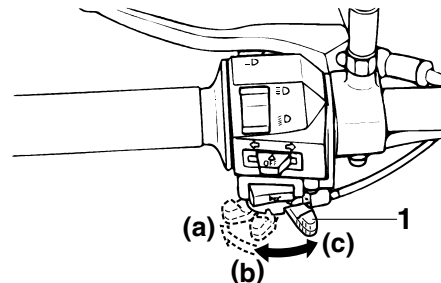
給油を終えたらレバーをONに戻してください。

要 点

ON で走行中にガソリンがなくなったときは、約 1 分間レバーを PRI にしてから RES にしてください。始動が容易になります。

チョークレバー “N”

JAU4581



1. チョークレバー “N”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジンの始動が容易になります。レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。

レバーを (c) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

要 点

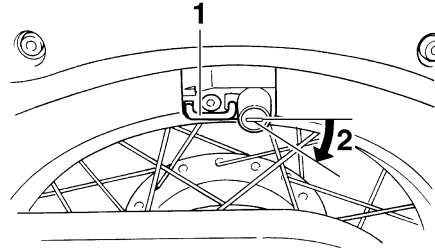
- この車のチョークレバーには、2 段階の節度があります。
- チョークレバーは、夏場（目安 20°C 以上）ではハーフの位置 (b)、夏場以外ではオンの位置 (a) での使用を推奨します。
- ハーフの位置 (b) からオンの位置 (a) までは、チョークレバーの引き具合が少し重く

なります。

JAU14283

JAU45891

ヘルメットホルダー



- 1. ヘルメットホルダー
- 2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのおごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

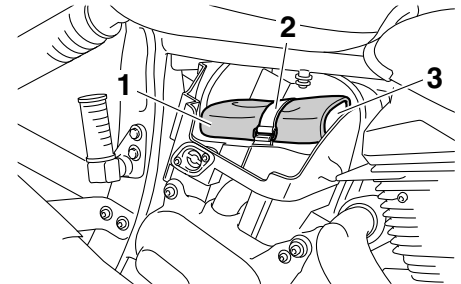
要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

カバーBを外すと、ツールケース内に書類入れがあります。(カバーの取り外しは 6-2 ページを参照)

自賠責保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れ(収納用ポーチ)に保管します。サービスツールの外側に巻いてバンドで固定してください。



- 1. 書類入れ
- 2. バンド
- 3. サービスツール

各部の取り扱いと操作

リヤクッションの調整

JAU14883

JWA11501

⚠ 警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

リヤクッションにはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JCA11911

注意

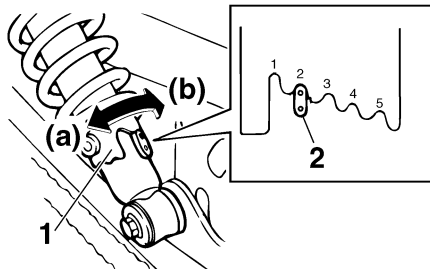
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロードの調整は以下のように行います。

スプリングプリロードを大きくし、サスペンションをハードにするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションをソフトにするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

要点

アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。



1. アジャスター
2. インジケーター

スプリングプリロード：

最大（ハード）：

5 段

標準：

2 段

最小（ソフト）：

1 段

サイドスタンド

JAU15306

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU15315

イグニッションサーキットカット オフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11541

**警告**

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

3

エンジンが停止した状態で：

1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチを“O”にします。
3. メインスイッチをONにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。

エンジンは始動しましたか？

はい

いいえ

エンジンが始動した状態のまま：

6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。

エンジンは停止しましたか？

はい

いいえ

エンジンが停止した後：

10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。

エンジンは始動しましたか？

はい

いいえ

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

要 点

この点検は、エンジンが充分暖まっている状態で行ってください。

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JAU15599

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービストールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

JAU30063

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

JAU45901

JWA11562

⚠ 警告

- エンジンを始動するときには、3-10 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

エンジンをかける前に

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが“○”にセットされていることを確認します。
3. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

外気温が 20°C 以下のとき

1. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉じます。(3-7 ページ参照)
2. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

3. エンジンが始動したら、20 ～ 30 秒後にチョークをハーフの位置まで戻します。

JCA15992

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

4. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したら、チョークをオフにします。

注 意

- チョークをオンにしたまま、長時間放置しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 走行するときは必ず、チョークをオフにしてください。

外気温が 20°C 以上のとき

1. チョークをハーフの位置まで引き、スロットルを完全に閉じます。(3-7 ページ参照)
2. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

3. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したら、チョークをオフにします。

JCA15671

注 意

- チョークをオンにしたまま、長時間放置しないでください。故障の原因になるおそれがあります。

- 走行するときは必ず、チョークをオフにしてください。

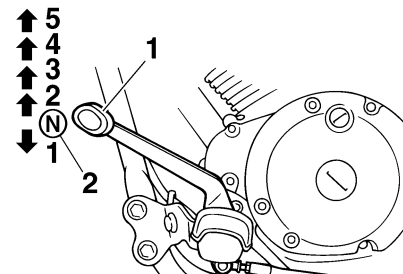
エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

JAU16641

ギヤチェンジのしかた

JAU27514



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の5段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12032

注意

- シフトペダルは、踏みこたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

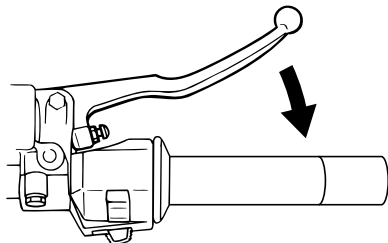
運転操作

ブレーキ

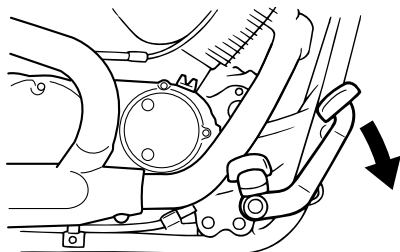
JAU33175

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



JWA11573

⚠ 警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべ

りや転倒の原因となります。

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

ならし運転

JAU31471

JAU27622

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JAU29839

JWA12055

警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。

難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ・ 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - ・ エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - ・ 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - ・ 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ・ 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリ

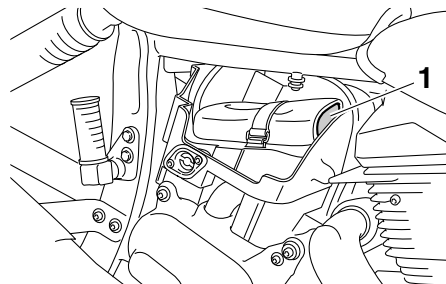
パー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU17342



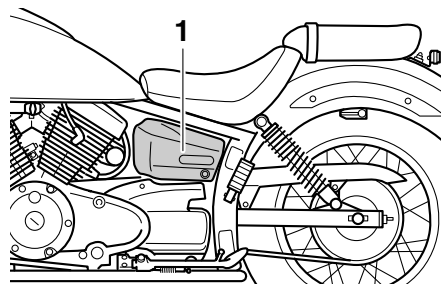
1. サービスツール

サービスツールはカバーBの後ろ側にあります。(カバーの取り外しは次の項目を参照してください。)

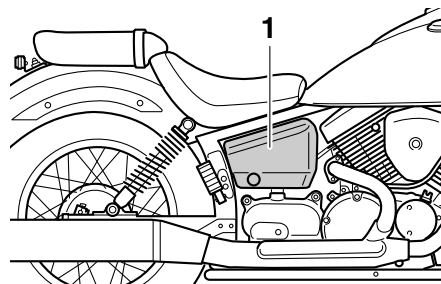
カバーの取り外し、取り付け

JAU18752

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A

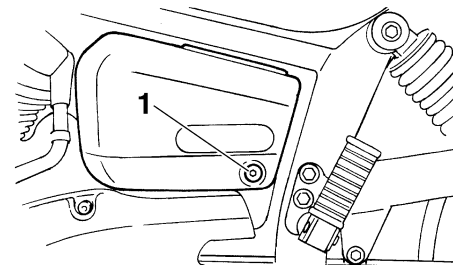


1. カバー B

カバー A

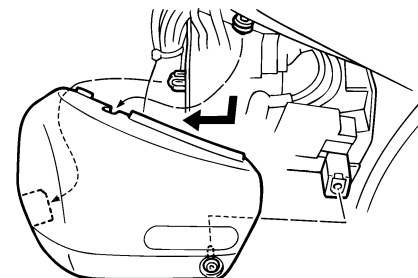
カバーの取り外しかた

1. ボルトを取り外します。



1. ボルト

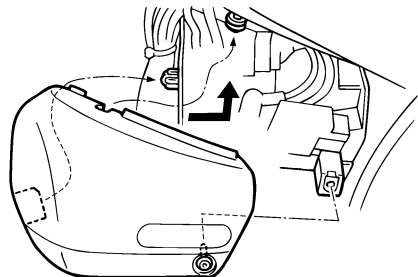
2. カバー後部を引き出し、カバーを前方に引いて取り外します。



点検整備

カバーの取り付けかた

1. カバー前部を取り付けてから、後部を押し込みます。

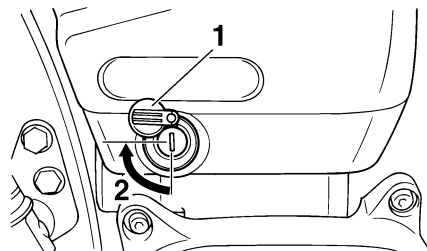


2. ボルトを取り付けます。

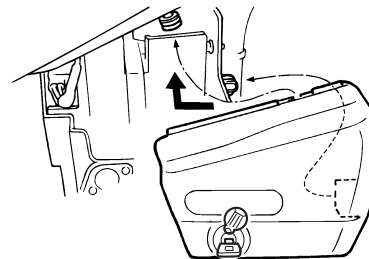
カバー B

カバーの取り外しかた

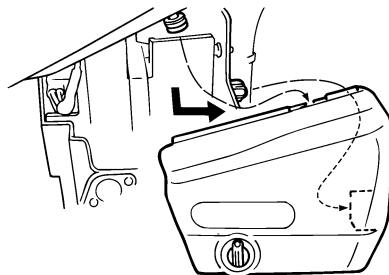
1. ロックカバーを開けて、キーを差し込み、時計方向に1/4回転回してロックを解除します。



1. ロックカバー
2. 解除
2. カバー後部を引き出し、カバーを前方に引いて取り外します。



2. キーを反時計方向に回してロックします。キーを抜いたらロックカバーを閉めます。



カバーの取り付けかた

1. カバー前部を取り付けてから、後部を押し込みます。

JAU30375

JAU30545

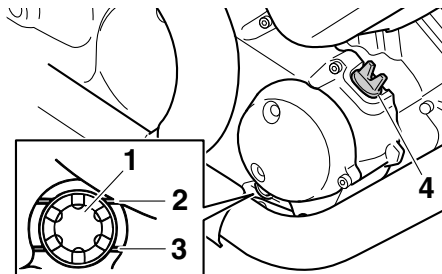
エンジンオイル エンジンオイル量の点検

- 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

- エンジンを止めて車を垂直にし、2～3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



- エンジンオイル点検窓
- フルレベル
- ロアレベル
- オイル注入口

- オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照)

エンジンオイルの交換時期

- 初 回：
- 1 か月点検時または 1000 km 時
- 2 回目以降：
- 3000 km 走行ごと、または
- 1 年ごと
- エンジンオイル量：
- オイル交換時：
- 1.40 L
- オイルフィルター取り外し時：
- 1.60 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターエレメントの交換時期

- 初 回：
- 1 か月点検時または 1000 km 時
- 2 回目以降：
- 9000 km 走行ごと

JWA11861



- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエ

ンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12102

注 意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルやマラーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

JAU30691

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

JAU44194

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

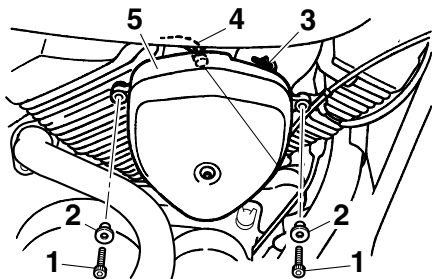
アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

エアクリーナーエレメントの清掃 エアクリーナーエレメントの清掃

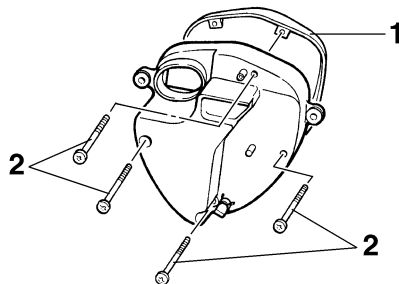
JAU45911

1. ボルトとワッシャーを外し、クランプスクリューをゆるめ、ホースを外して、エアクリーナーケースを取り外します。

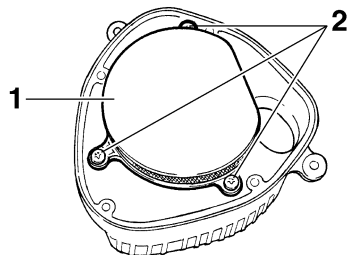


1. ボルト
2. ワッシャー
3. クランプスクリュー
4. ホース
5. エアクリーナーケース

2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。

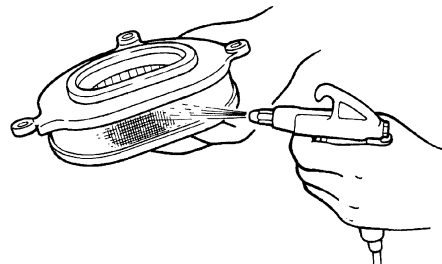


1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー
3. スクリューを外し、エアクリーナーエレメントを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント
2. スクリュー
4. エアクリーナーエレメントを軽くたたいてゴミ、ほこりを落とし、エアを図のよ

うに吹き付けて清掃します。エアクリーナーエレメントに損傷がある場合は交換します。



5. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付け、スクリューを締め付けます。

JCA11941

注意

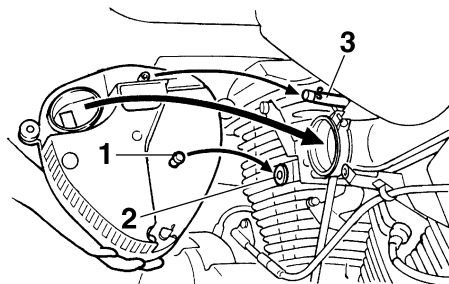
- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントに水や油などをつけないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入

点検整備

れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

6. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
7. ホースを接続します。
8. 突起をグロメットに差込み、エアクリーナーケースとワッシャーを取り付け、ボルトを締め付けます。

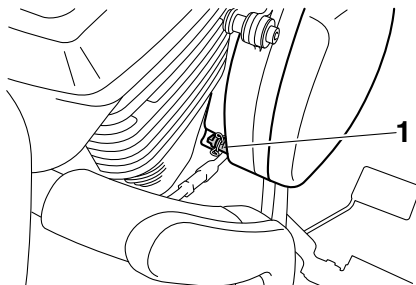


1. 突起
2. グロメット
3. ホース

9. クランプスクリューを締め付けます。

ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホースの清掃

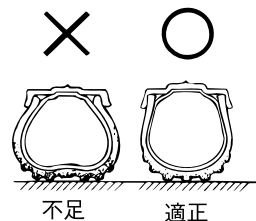
1. ブリーザーダレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザーダレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ空気圧

JAU70860



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

タイヤ空気圧（冷間時）:

1 名乗車:

前輪:

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

後輪:

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

2 名乗車:

前輪:

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

後輪:

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

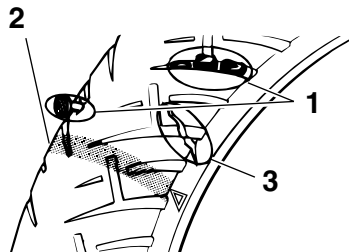
要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28582

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケターで点検します。ウェアインジケターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・

整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：

80/100-18M/C 47P

後輪：

130/90-15M/C 66P

指定タイヤ：

前輪：

IRC/MARBELLA NF27

後輪：

IRC/MARBELLA NR31

JAU28972

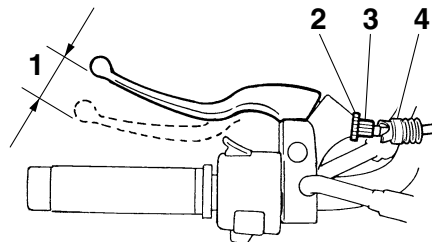
JWA11841

クラッチ クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び

5.0-10.0 mm



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター
4. ゴムカバー

点検の結果調整が必要な場合は、ゴムカバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注意

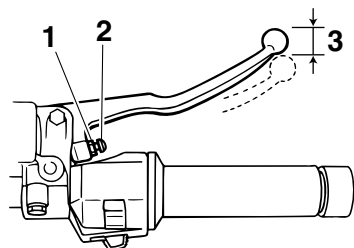
- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキレバーの遊びの点検

<フロントブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. 遊び

ブレーキレバーの遊び

5.0–8.0 mm

JWA11751



警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感

じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検の結果調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JCA12071

注意

調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。

JWA11851

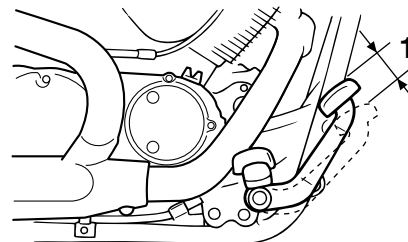


警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

<リアブレーキ>

ブレーキペダルを手で押し、抵抗を感じるまでの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



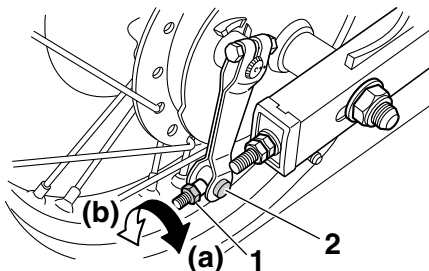
1. 遊び

ブレーキペダルの遊び

20.0–30.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

1. アジャスターを時計回り (a) に回すと、遊びが少なくなります。
2. アジャスターを反時計回り (b) に回すと、遊びが多くなります。

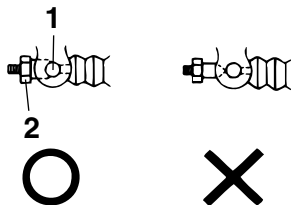


1. アジャスター
2. ピン

6

要 点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。



1. ピン
2. アジャスター

JWA11851

⚠ 警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりが無いかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠ 警 告

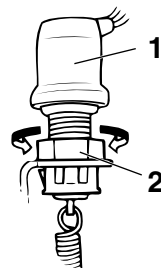
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22274

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12081

注 意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。

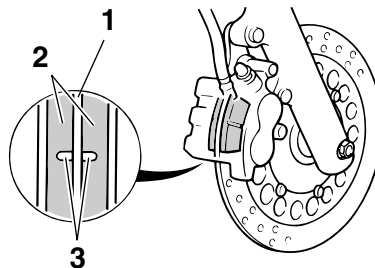
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29671

ブレーキパッドの点検

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。



1. ブレーキディスク
2. ブレーキパッド
3. インジケーター溝

インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

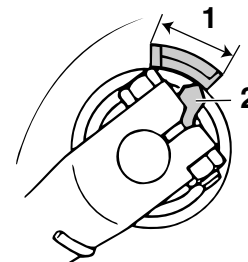
JAU29861

ブレーキシューの摩耗点検

<リヤブレーキ>

ブレーキシューの摩耗の状態を点検します。ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、インジケーターがシュープレートの使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。

ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。



1. 使用範囲
2. インジケーター

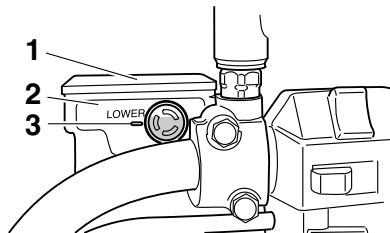
JWA11831

警告

ブレーキシューの交換時には、ブレーキシューのテンションスプリングも同時に交換してください。

ブレーキ液量の点検

JAU29981



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバタンクキャップ上面を水平にして、リザーバタンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

JWA12151

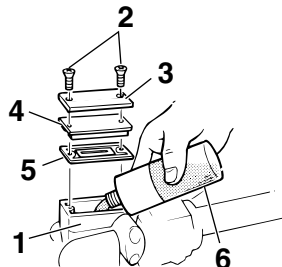
警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

JAU43485

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がリザーバタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. マスターシリンダー
 2. スクリュー
 3. キャップ
 4. ダイヤフラムブッシュ
 5. ダイヤフラム
 6. ブレーキ液
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。

指定ブレーキ液：

ヤマハ用 ブレーキフルード
BF-4 (DOT-4)

JWA12072

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

JCA12331

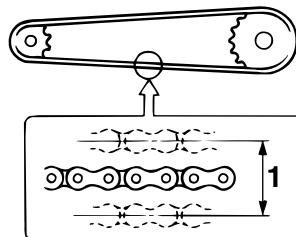
注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム

類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

ドライブチェーン

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するとき、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：

20.0–30.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲

JAU22762

JAU2277G

にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

ドライブチェーンのたわみ量が50 mm以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

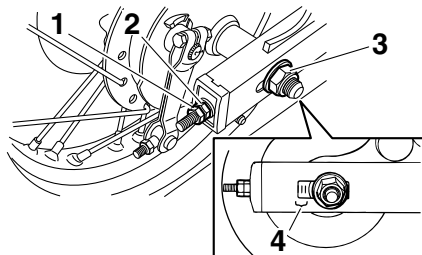
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU30513

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロックナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめてアジャスターで左右均等に締め込みます。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. セルフロックングナット
4. 刻み目盛り

要 点

刻み目盛りを左右同位置にします。

3. チェーンのたわみ量が規定値になるように調整します。
4. 調整後、セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：

105 N・m (10.5 kgf・m)

5. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：

16 N・m (1.6 kgf・m)

6. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JWA12012

⚠ 警 告

ドライブチェーンたわみ量の調整後は、必ずブレーキ調整を行ってください。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

JAU43562

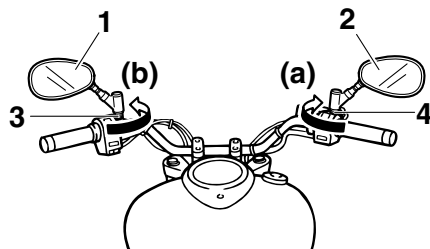
の手順で行います。

JAU28621

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り (a) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り (b) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆

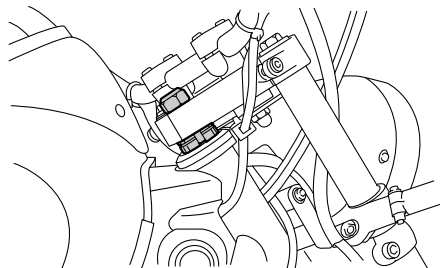
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締付けを依頼してください。

JAU28651

バッテリー バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28762

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

JWA11811

服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間で使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

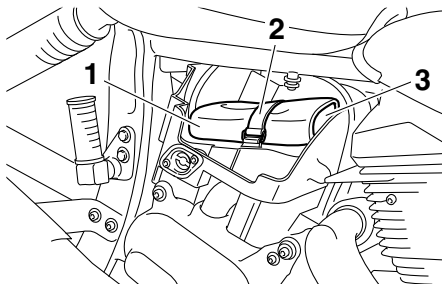
JAU45923

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー B を取り外します。（カバーの取

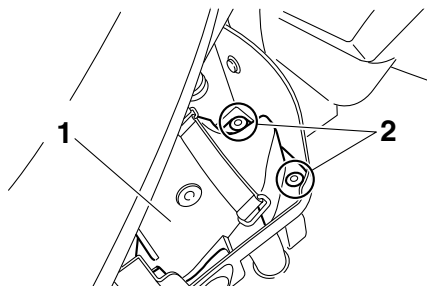
り外しは 6-2 ページ参照)

3. バンドを外し、書類入れとサービスツールを取り出します。



1. 書類入れ
2. バンド
3. サービスツール

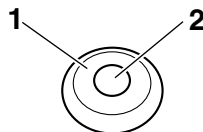
4. クイックファスナーを取り外し、ツールボックスを外します。



1. ツールボックス
2. クイックファスナー

要 点

クイックファスナーはセンターピンを押し込んで取り外します。



1. クイックファスナー
2. センターピン

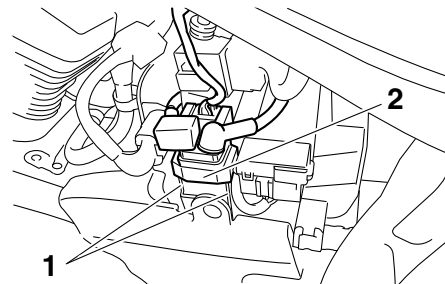
5. カバー A を取り外します。(カバーの取

り外しは 6-2 ページ参照)

6. スターターリレーをホルダーから取り外します。

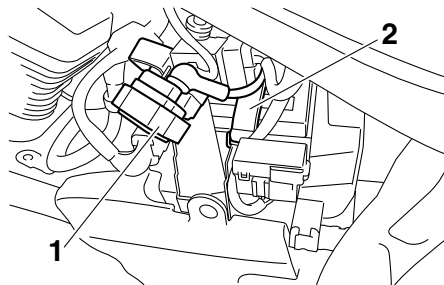
要 点

このとき、スターターリレーの配線を取り外す必要はありません。



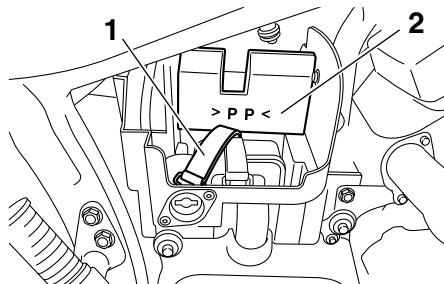
1. ホルダー
2. スターターリレー

7. バッテリーバンドを外します。



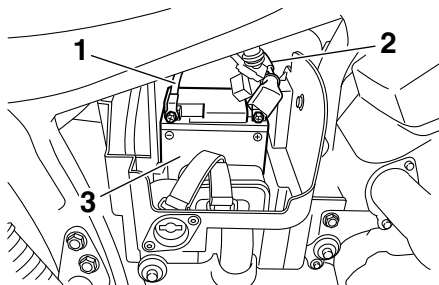
1. スターターリレー
2. バッテリーバンド

8. カバー B 側から、バッテリーカバーを外します。



1. バッテリーバンド
2. バッテリーカバー

9. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. バッテリー

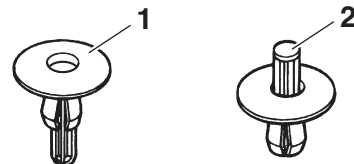
10. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要 点

クイックファスナーはセンターピンをクイックファスナーの面から押し出した状態で取り付け、その後センターピンをクイックファスナーの面と同じ位置まで押し込みます。

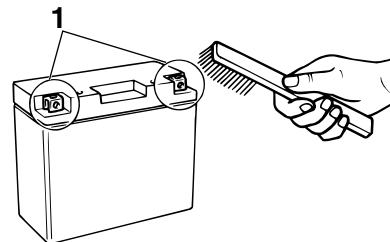


1. クイックファスナー (取り外した状態)
2. クイックファスナー (取り付け前)

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

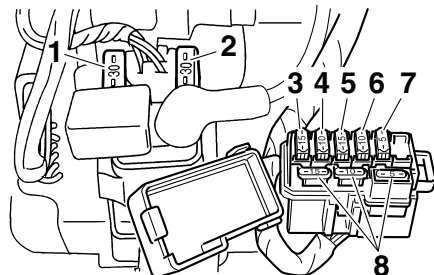


1. ターミナル

JAU2352A

ヒューズ交換

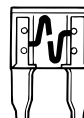
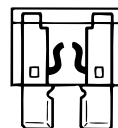
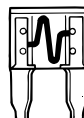
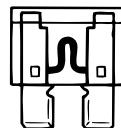
メインヒューズと系統別ヒューズボックスは、カバー A を外したところにあります。
(6-2 ページ参照)



1. メインヒューズ
2. スペアメインヒューズ
3. ヘッドライトヒューズ
4. イグニッションヒューズ
5. シグナルヒューズ
6. キャブレターウォーマーヒューズ
7. バックアップヒューズ
8. スペアヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：

- メイン：
30.0 A
- イグニッション：
10.0 A
- シグナル：
15.0 A
- ヘッドライト：
15.0 A
- キャブレターウォーマー：
10.0 A
- バックアップ：
5.0 A

JCA12862

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のもを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を

強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU29444

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-20 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

運行において異常が認められた箇所の点検

JAU29571

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

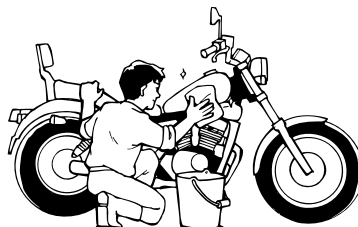
洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：

ユニコンカークリーム



JWA12121

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにして

ください。

- 洗車時、ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキがきかなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドに、ワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因となります。

JCA12214

注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーな

お車の手入れ

どのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

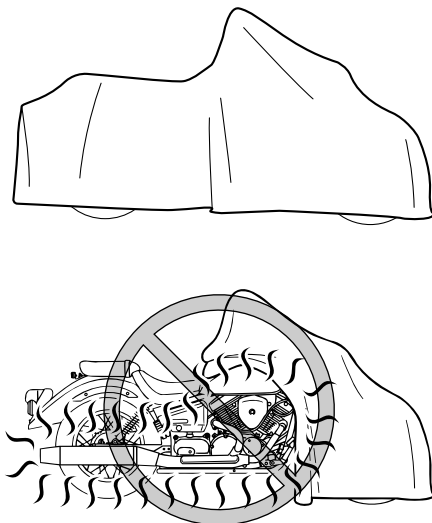
洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドラ

イトを短時間点灯することで自然に取れます。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



注意

長期間お乗りにならないときは、以下のこと

JAU28064

JCA12433

を守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- キャブレター内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のつまりなどを防ぎます。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電およびガソリンの抜き取りは、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

JAU28085

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下のURLを入力してホー

ムページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<http://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



製品仕様

寸法:

全長:
2320 mm
全幅:
935 mm
全高:
1070 mm
シート高:
670 mm
軸間距離:
1530 mm
最低地上高:
150 mm

重量:

車両重量:
160 kg
分布荷重 (前):
72 kg
分布荷重 (後):
88 kg
車両総重量:
270 kg
分布荷重 (前):
90 kg
分布荷重 (後):
180 kg

乗車定員:

2 名

性能:

定地燃費 (国土交通省届出値):
51.0 km/L/60 km/h
最小回転半径:
2.9 m
最高出力:
15 kW (20 PS)/8000 r/min
最大トルク:
19 N · m (1.9 kgf · m)/6000 r/min

エンジン:

行程:
4 ストローク
冷却方式:
空冷
動弁機構:
SOHC
配列:
V 型
気筒数:
2 気筒
総排気量:
248 cm³
内径 × 行程:
49.0 × 66.0 mm

圧縮比:

10.0 : 1

エアフィルターエレメント:

乾式エレメント

クラッチ形式:

湿式, 多板

変速機形式:

常時噛合式 5 速

始動方式:

セルフ式

キャブレター:

型式 × 数量:
BDS26 × 1

車体:

フレーム形式:
ダブルクレードル
キャスター:
35.0 度
トレール:
135 mm

ステアリングシステム:

ハンドル切れ角 (左):
38.0 度
ハンドル切れ角 (右):
38.0 度

燃料：	スプリング：	メーカー / 銘柄：
種類：	コイルスプリング	IRC/MARBELLA NR31
無鉛レギュラーガソリン	ショックアブソーバー：	動力伝達機構：
フューエルタンク容量：	オイルダンパー	1 次減速比：
11 L	ホイールトラベル（前）：	3.130 (72/23)
予備容量：	140 mm	1 速：
3.4 L	リヤサスペンション：	2.642 (37/14)
フロントブレーキ：	種類（後）：	2 速：
ブレーキ形式：	スイングアーム	1.684 (32/19)
油圧式シングルディスクブレーキ	スプリング：	3 速：
パッド厚さ：	コイルスプリング	1.260 (29/23)
6.2 mm	ショックアブソーバー：	4 速：
使用限度：	オイルダンパー	1.000 (26/26)
0.8 mm	ホイールトラベル（後）：	5 速：
指定ブレーキフルード：	100 mm	0.821 (23/28)
BF-4 (DOT-4)	フロントタイヤ：	2 次減速比：
リヤブレーキ：	種類：	2.800 (56/20)
ブレーキ形式：	チューブ有り	エレクトリカル：
機械式リーディングトレーリングド	サイズ：	電圧：
ラムブレーキ	80/100-18M/C 47P	12V
ライニング厚さ：	メーカー / 銘柄：	点火方式：
4.0 mm	IRC/MARBELLA NF27	TCI
使用限度：	リヤタイヤ：	ヘッドライト：
2.0 mm	種類：	ヘッドライト球：
フロントサスペンション：	チューブ有り	ハロゲンバルブ
種類（前）：	サイズ：	
テレスコピック	130/90-15M/C 66P	

製品仕様

バルブワット数:

ヘッドライト:

H4, 60.0 W/55.0 W

ブレーキ / テールランプ:

21.0 W/5.0 W

方向指示灯 (前):

21.0 W

方向指示灯 (後):

21.0 W

メーター灯:

1.7 W

ニュートラルランプ:

1.7 W

方向指示器表示灯:

1.7 W

ヘッドライト上向き表示灯:

1.7 W

エンジン警告灯:

1.7 W

エンジンオイル:

推奨オイル:

ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量:

オイル交換時:

1.40 L

オイルフィルター取り外し時:

1.60 L

ドライブチェーン:

たわみ量:

20.0-30.0 mm

ブレーキレバーとブレーキペダル:

フロントブレーキレバー遊び:

5.0-8.0 mm

ブレーキペダル遊び:

20.0-30.0 mm

ケーブルとレバーの遊び:

スロットルグリップ遊び:

3.0-5.0 mm

クラッチレバー遊び:

5.0-10.0 mm

タイヤ空気圧 (冷間時):

1 名乗車:

前輪:

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

後輪:

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

2 名乗車:

前輪:

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

後輪:

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

バッテリー:

バッテリー型式:

YTZ7S

バッテリー容量:

12 V, 6.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ:

メーカー / 型式:

NGK/CR6HSA

メーカー / 型式:

DENSO/U20FSR-U

プラグギャップ:

0.6-0.7 mm

ヒューズ容量:

メイン:

30.0 A

ヘッドライト:

15.0 A

シグナル:

15.0 A

イグニッション:

10.0 A

バックアップ:

5.0 A

キャブレターウォーマー:

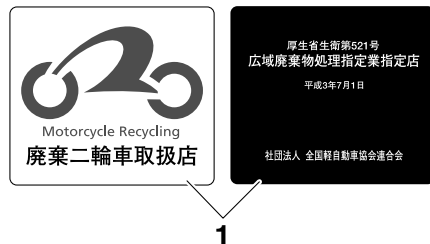
10.0 A

二輪車を廃棄する場合は？ 廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

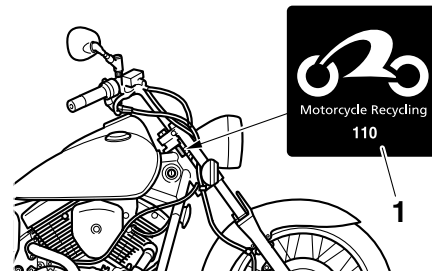
リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<http://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>

公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

ユーザー情報

JAU28392

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XVS250 サービスマニュアル

部品番号：

QQS-CLT-001-5KR

JAU50492

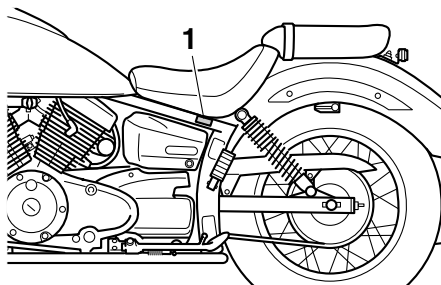
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は

XVS250 ドラッグスター

モデルラベル

製品仕様を示しています。

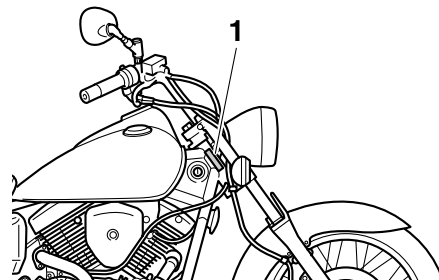


カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



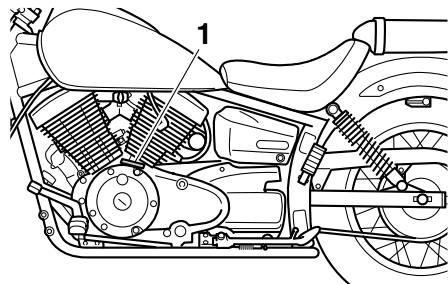
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511



1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

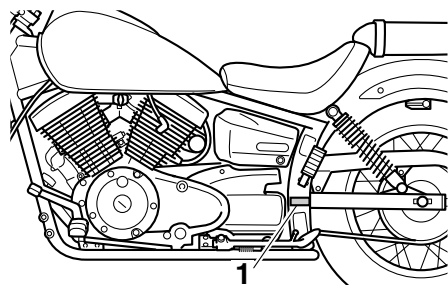
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

型式認定番号

JAU50521



1. 型式認定番号

索引

あ

- あなた自身と同乗者のために 1-1
- アフターケア用品について 7-3
- アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
(ステアリングシステム) 6-17

い

- イグニッションサーキット
カットオフシステム 3-10

う

- 運行において異常が認められた
箇所の点検 6-21

え

- エアクリーナーエレメントの清掃 6-6
- エンジンオイル 6-4
- エンジン始動
(エンジンが暖まっているとき) 5-2
- エンジン始動
(エンジンが冷えているとき) 5-1
- エンジンストップスイッチ 3-5
- エンジンのかかり具合、
異音の点検 6-5

か

- 型式認定番号 9-3
- カバーの取り外し、取り付け 6-2
- 環境・住民の方との調和のために 1-5

き

- キーの取り扱い 3-1
- ギヤチェンジのしかた 5-2

く

- クラッチ 6-9

け

- 警告灯と表示灯 3-3
- 原動機番号 9-3

さ

- サービスツール 6-2
- サービスマニュアル（別売）の
紹介 9-2
- サイドスタンド 3-9

し

- 車体各部の給油脂状態の点検 6-16
- 車台番号 9-2
- 車両情報 9-2
- 書類入れ 3-8

す

- スタータースイッチ 3-5
- スピードメーターユニット 3-3

せ

- 洗車 7-1

た

- タイヤ 6-7

ち

- 駐車 5-4
- チョークレバー 3-7

て

- 低速、加速の状態の点検 6-5
- 点検整備の実施 6-1

と

- 灯火装置および方向指示灯の
点検 6-21
- ドライブチェーン 6-14
- ドライブチェーンの給油 6-15

な

- ならし運転 5-3

に

- 日常点検箇所／点検内容 4-1
- 日常点検の実施 4-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 9-1

ね

- 燃料 3-6

は

- ハザードスイッチ 3-5
- バックミラー 6-16
- パッシングライトスイッチ 3-4
- バッテリー 6-17
- ハンドルスイッチ 3-4

ひ

- ヒューズ交換 6-20

ふ

- フューエルコック 3-7
- フューエルタンクキャップ 3-5
- ブレーキ 5-3
- ブレーキ液の補給 6-13
- ブレーキ液量の点検 6-13
- ブレーキシューの摩耗点検 6-12
- ブレーキパッドの点検 6-12
- ブレーキランプスイッチ 6-11
- ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検 6-10

へ

- ヘッドライト上下切り替え
スイッチ 3-4
- ヘルメットホルダー 3-8

ほ

ホーンスイッチ	3-4
方向指示器スイッチ	3-4
保管のしかた	7-2
歩行者と他の車のために	1-4

め

メインスイッチ	3-1
---------------	-----

も

モデルラベル	9-2
--------------	-----

り

リヤクッションの調整	3-9
------------------	-----

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-107-19D

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2016.12-0.2×1 
(J)